

はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2020年7月-9月 通巻第164号



園長のおすすめ 2019年8月4日号より

ブルボフィルム・ロビー *Bulbophyllum lobbii* Lindl.

ブルボフィルム・ロビーは、ミャンマーからタイ、インドネシアにかけての熱帯アジアに自生する着生ランです。日本に分布するムギランと同じマメヅタラン属に分類されていて、葉や偽鱗茎の形はよく似ていますが、その大きさは全く異なり、花も5cm以上になります。

この属には、独特で面白い形をした花をつける種類がたくさんあります。特にラン科特有の唇弁には、「関節」と呼ばれる構造があって、風にゆらゆら揺れています。じっくり観察してみてください。

(園内位置：大温室)

[写真・文 世羅 徹哉]

園長のおすすめ

植物公園ブログでは、園長のおすすめを定期連載中です。

見ごろの植物や最新のイベント情報も掲載しています。



<https://blog.hiroshima-bot.jp>



国内最大のバオバブが開花

今年、大温室のシンボルツリーである国内最大のオーストラリアバオバブが導入から3年目を迎えます。去年は8月下旬～9月中旬にかけて、大温室に導入してから初めて6輪の花が咲きました。開花後は多くの入園者の方々に喜んでいただくことができました。今回は去年のオーストラリアバオバブの開花の様子について誌面が許す限り紹介しますので、今年の開花を見る際の参考になればと思います。バオバブの新たな葉が顔を見せ始めたのが5月上旬で、そこからゆっくりと成長していき、8月に入る頃には立派に葉を茂らせました。

8月5日、いつものようにバオバブに梯子をかけて上の方の様子を近くで観察していると、なんと小さな蕾が2つも出ているではないですか！見つけた時は涙が出て、震えるほど興奮しました。数日後に内1つの蕾は落ちてしまいましたが、残った1つの蕾は順調に生長していき、8月25日の夕方には、蕾の先端が割れ、白い花の頭が突き出ていました。「これは今晚咲くぞ！」と思い、開花の瞬間を撮影するために、蕾の近くの枝に鳥獣用カメラを設置しました。翌朝、バオバブに登ってみると手の平ほどの大きさの綺麗な花が咲いているのを見て感動しました(写真1)。顔を近づけてみると、ほのかに甘い香りがしました。前日の夜に設置したカメラを確認してみると、花の大部分が手前側にあった葉に遮られていて、開花の瞬間を捉えることはできませんでした。わずかに捉えられたのは、がくが巻いている様子で、そこからがくが開き始めたのが21時前頃だということが特定できました。開花後、悪天候が続いたこともあり、花卉の色が白から濃い褐色に変わりながら、3日間ほど咲き続けました。

以降は、1輪目の撮影失敗を反省して、可能な限り大温室に張り込みをして、20秒間隔で定位置から撮影した静止画をつないで動画に見せるタイムラプス動画と、ビデオカメラによる動画の撮影を行いました。

さらに、8月29日には新たに蕾を5つ見つけることができました。

9月12日の夜、2輪目、3輪目が開花しました。2輪目は、20時過ぎから目に見えるスピードでがくが巻いていきました。その後、徐々に花卉が膨らみ、22時過ぎから花卉が開きました。

3輪目は、21時頃からがくが巻きかけていましたが、途中で止まってしまいました。原因は撮影のために強い光を当てたことではないかと思われます。一旦暗くしたら21時半頃からがくが再び巻き始めました。その後、23時頃から30分間ほどかけて花卉が開きました。

9月17日夜、4輪目が開花しました。20時過ぎから30～40分かけてがくが巻き、22時過ぎに一瞬にして花卉が開きました。

9月19日夜、5輪目が開花しました。20時過ぎから少しがくが巻き始めましたが、あまり変化しなかったため21時15分まで消灯しました。その後、再度点灯したところ、21時40分頃までがくが巻きました。花卉は23時30分過ぎに一瞬にして開きました。

9月25日21時50分頃から6輪目が開花し始めましたが、翌26日の朝になっても花が開ききっていませんでした。原因は、9月末になって夜温が低くなったためではないかと思われます。開花日の夜は22時頃から弱い光を当てていました(それまで真っ暗)。がくは少し巻いている程度でした。

2輪目以降は、花は2～3日間程咲き続けました。

今年は去年以上に多くの花を咲かせるために、毎日のように観察・管理をしています。また、結実している様子も多くの方に見てもらえるように、去年はうまくいかなかった人工授粉を今年も試みようと思っています。撮影できた動画、この場で書ききれなかったことについては、いずれどこかの機会でお披露目することができたらと思っています。開花については、ブログ等で発信する予定なので、欠かさずチェックしてくださいね。



写真. 開花翌朝の1輪目の花(8月26日)

[写真・文 堀川 大輔]

2020年7月～9月 展示会・イベント案内

8/29～9/13
の土日

秋の夜間開園

サガリバナ、オオオニバス、月下美人、イエライシャン・ヨルガオなどの夜咲き香る花が見所。一期一会の出会いをお楽しみください。

展示会のご案内

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、展示会・イベントを中止・延期する可能性があります。

むし・花・Zoo-Zoo写真展		6/10～ 8/ 6	展示資料館
夏のカラフルリーフ展		6/24～ 7/12	展示温室
世界の食虫植物展	協力：広島食虫植物同好会	7/18～ 8/16	展示温室
おし花美術作品展	共催：おし花美術研究会	8/ 8～ 8/31	屋外展示場
変化朝顔展	協力：広島あさがお研究会	8/22～ 8/30	展示温室
薬用植物展		9/ 5～ 9/24	展示温室
私の好きな花たちの写真展	共催：新田写真教室	9/ 5～10/ 8	展示資料館

7月

うらら池自然散策（先着50名）
7月18日（土）午後1時半～2時半

9月

薬用植物展解説（先着50名）
9月13日（日）午後1時半～2時

植物写真撮影講習会（先着30名）
9月20日（日）午後1時～3時

暮らしに生かす薬草～出雲國風土記掲載植物～（申込抽選50名・ㄨ切 9/7）
9月21日（月・祝）午後1時半～3時

季節の花物語【ヒガンバナ】（先着50名）
9月22日（火・祝）午後1時半～2時半

8月

季節の花物語【アサガオ】（先着50名）
8月1日（土）午後1時半～2時半

食虫植物実演会（先着50名）
8月2日（日）・10日（月・祝）午後1時～、3時～

季節の園芸講座②（申込抽選50名、ㄨ切 8/6）
8月22日（土）午後1時半～3時

オオオニバス試乗体験会（各日抽選150名、ㄨ切 7/21）
8月12日（水）・15日（土）・16日（日）・18日（火）

変化朝顔展解説（先着50名）
8月23日（日）午前10時～11時

鳴く虫観賞会（各日抽選50名・ㄨ切 8/11）
8月29日（土）・30日（日）午後7時15分～8時半

＊毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています＊
＊毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時～は、園内で職員による植物うんちくガイドを実施しています＊
＊毎月第2日曜日（7/12, 8/9, 9/13）には、園内でジュニアプロジェクト（先着30名）を実施しています＊

令和2年度新講座「季節の花物語」

夏・秋・冬の3回にわたり、季節を感じさせる植物を選び、その植物にまつわる歴史、裏話などを当園のベテラン職員がご紹介します。

(夏の部) 8月1日午後1時半～

遺伝の不思議!

～変化アサガオの世界～

講師：井上 尚子 (栽培展示課 第二栽培・展示係長)

(秋の部) 9月21日午後1時半～

ヒガンバナとその仲間たちについて

- ・ヒガンバナはなぜ秋の彼岸に咲くの？
- ・赤以外もある？白や黄色のヒガンバナ ほか

講師：濱谷 修一 (栽培展示課 課長補佐)



野生のアサガオ



変化朝顔 (青握爪龍
葉紅風鈴獅子咲牡丹)
あおにぎりつめりゅうは
べにふうりんししぎきぼたん



ヒガンバナ



ショウキズイセン

作品を募集します〈募集開始は9月1日(火)からです〉

応募の詳細は植物公園ウェブページや各コンテストのチラシをご確認ください。

植物写真コンテスト

テーマ 広島市植物公園内の植物及び園内風景で未発表のもの。
応募点数は一人5点まで。



第43回 最優秀賞 「フラダンス」 (サガリバナ)
管原 正人さん

ガーデニングコンテスト

募集内容 ハングングバスケットやコンテナ (植木鉢などの器) に植物を自由に植え付けたもの、各部門50点。



第19回 グランプリ 「ダスティーな秋色を楽しむ」
瀬川 かづ美さん

Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。
[☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時]

Q. ベゴニアをテラリウムで育てているのですが、よく腐らせてしまいます。どうしたらいいですか？

A. 水やりはどのくらいしていますか。テラリウムは排水できないため、水をやり過ぎるとすぐに根腐れを起こしてしまいます。容器の内側の結露がなくなった頃、容器の底に水が溜まらないように水さしや霧吹きなどで水を与えましょう。水分を吸収すると、色が濃くなり、乾くと白っぽくなるハイドロボールを用いると水やりの目安になり、よいでしょう。ハイドロボールは粘土玉を焼いて発泡させたもので、排水性、保水性に優れています。また、根腐れ防止剤を容器の底面に敷くことも効果的です。

肥料のやり過ぎも根腐れを起こす原因となります。テラリウムでは養分が流れ出ることがないため施肥はほとんど不要です。肥料切れが見えたら液体肥料を水やり代わりに与えましょう。多くても年に数回程度で大丈夫です。

日々の手入れでは、枯れ葉があれば割りばしなどで取り出し、常に清潔に維持するようにしましょう。これらのことに注意しながら卓上でグリーンの小宇宙をお楽しみください。

[文 田中 宏昌]

Q. 庭のサクラの葉が赤く膨らんでいます。何かの病気でしょうか？どうしたら治りますか？

A. サクラの葉が赤く膨らんでいる正体は、アブラムシによって生じた虫こぶです。この虫こぶは、春先に孵化したアブラムシが葉を吸汁することによって形成されます。春が終わると虫こぶの中から翅のあるアブラムシ（雌）が出てきます。虫こぶから出たアブラムシ（雌）は他の植物に移住した後、秋にサクラに戻ってきて、枝上に産卵します。

この虫こぶの影響でサクラが枯れてしまうということはありませんが、美観を損ねてしまいます。この虫こぶの対処法としては、サクラの新芽が出る前に薬剤散布を行います。薬剤はサクラ（樹木類）に登録のあるスミチオン乳剤などが良いでしょう。虫こぶが形成されてしまった後での薬剤散布は、アブラムシが虫こぶの中にいるので効果が薄くなります。手間はかかってしまいますが、膨らんだ葉を一枚ず

つ取り除くのが確実な防除方法です。また、秋にアブラムシ（雌）が戻ってくる前に薬剤散布を行うことも効果的です。

[写真・文 佐藤 祐輔]



写真 アブラムシによって葉に生じた虫こぶ

Q. カランコエを夏に弱らせてしまうことが多いのですが、どうしたらいいですか？

A. カランコエは、暑さと乾燥に強く育やすい人気の鉢物ですが、夏越しには2つのポイントがあります。1つ目のポイントは蒸れ対策です。鉢の置き場所は雨の当たらない風通しが良い屋外が適します。ハウス栽培の場合は換気扇を回すなどして換気に努めます。また夏場の直射光により鉢内の地温が上昇しすぎると根がダメージを受けるため、遮光したほうが安全です。2つ目はカイガラムシ対策です。カイガラムシは風通しが悪いと発生しやすく、また、一度発生すると薬剤散布を繰り返してもなかなか根絶できない厄介者です。そこで、枝葉を透かすように剪定し、風通しに努めます。また、市販の鉢物に使われている用土は水持ちが良すぎる 경우가多く、株元付近に湿気がたまることにより、カイガラムシの発生を助長する原因になることがあります。この場合、水はけのよい用土（例えば多肉植物用の用土）に植え替えます。用土を替えるだけでもカイガラムシ被害が激減しますし、他の多肉植物のカイガラムシ対策にも応用できる方法ですので、ぜひお試しください。

[文 泉川 康博]



フクシアのなかま Fuchsia spp.



フクシア温室の様子



フクシア デプンシャーダンプリング



フクシア レッドスパイダー

フクシアは中南米の熱帯～亜熱帯地方が原産ですが、自生地は高原などの冷涼で湿度の高い環境です。そのため、日本の夏の暑さは苦手で、本園では夏は冷房下で栽培しています。上品な花は貴婦人のイヤリングとも呼ばれ、長い筒状の花はハチドリによる受粉にあわせた形です。

ハイビスカスのなかま Hibiscus spp.



ハイビスカス・アーノッティアヌス



ブッソウゲ



フウリンブッソウゲ



ハイビスカス・クレイ



ハイビスカス マウイウインド



タイタンピカス ジャイアントローズ

ハイビスカスといえば、南国ハワイのイメージが定着していますが、街中でみられる一般的なハイビスカスは中国原産のブッソウゲとハワイの原種（コキオなど）を交配させたハワイアン系と呼ばれる園芸品種群です。ハイビスカスは熱帯の花なので暑さには強いと思われがちですが、日中の気温が30度を超える日本の夏は過酷な様で、むしろ初夏と初秋に多くの花を観賞できます。

7月～9月に見ごろを迎える植物



ヒマワリ
(カスケード・花壇ほか)



モミジアオイ
(ログガーデン)



ハス
(花の進化園)



トーチジンジャー
(大温室)



熱帯スイレン アンタレス
(熱帯スイレン温室)



オジギソウ
(花の進化園)



ゴレンシ (スターフルーツ)
(大温室)



ヨルガオ
(展示資料館前・進化園)



カライトソウ
(ロックガーデン)



ユーフォルビア・キリンドリフォリア
(サボテン温室)



オウゴンオニユリ
(里山の野草園)



カワミドリ
(バタフライガーデンほか)

盛夏の時期でも、園内を散策してみると、様々な花を見つけることができます。熱中症に気を付けて、夏の植物をお楽しみください。疲れたら、冷房の入っているベゴニア温室・フクシア温室で一休み。さて、まだ葉が展開していないのですが(5月末時点)、日本一のオーストラリアバオバブは今年も花を咲かしてくれるのでしょうか。今から楽しみです。[写真・文：久保晴盛]

あの花この花

青い耐寒性スイレン Blue Hardy Waterlily.

スイレン属 (*Nymphaea*) には耐寒性種と熱帯性種があり、両者を併せて約50種の野生種が存在します。花色も白・黄・赤・ピンク・青と様々で、園芸品種では複合色を有するものもあります。そのなかで、青い花を咲かせる野生種はすべて熱帯性スイレンです。熱帯性スイレンの自生地は気温5°Cを下回ることがないため、日本の冬の寒さは苦手です。屋外では枯死する場合があります。そのため、加温栽培を行うか、休眠させて暖かい室内に取りこんで越冬させます。一方、耐寒性スイレンは根茎が凍らなければ屋外で越冬が可能です。このことから、日本を含む冬の寒さが厳しい地域では、耐寒性スイレンのほうがなじみ深いようです。とはいえ、青いスイレンには独特の魅力があり、屋外で冬の寒さに耐える青いスイレンを夢見る愛好家は世界的にも少なくありませんでした。

耐寒性スイレンと青い熱帯性スイレンを交配すれば、その夢のようなスイレンが作れるのでは？ そう思うかもしれませんが、両者は亜属が異なるため、交配は不可能と言われていました。しかしながら2009年、タイのパイラット・ソンパニッチ氏が、耐寒性スイレンと熱帯性スイレンを交配させることに成功し、青い耐寒性スイレン、'Siam Blue Hardy' サイアム・ブルー・ハーディー を完成させます。

残念ながらこのサイアム・ブルー・ハーディーは流通を前にして、2011年のタイの大洪水の際にこの世から失われてしまいました。ソンパニッチ氏は再度、交配にチャレンジし、新たな青い耐寒性スイレン、'Queen Sirikit' クイーン・シリキットを誕生させます。

タイの女王の名を冠したこのスイレンは、非常に整った花形と美しい花色を有しています。開花初日は碗状に咲き、開花2日目以降は青味が増していきます。勿論、日本の冬でも屋外で越冬可能な耐寒性を有します。ソンパニッチ氏の成功を皮切りに、耐寒性スイレンと熱帯性スイレンの交配種が少しずつ世に出るようになりました。

日本国内ではまだあまり流通していませんが、皆さんもぜひ、青い耐寒性スイレンを目にしたいと思っています。



写真1. 耐寒性スイレン (野生種の花の色は白・黄・淡い赤・淡いピンク)



写真2. 熱帯性スイレン (野生種の花の色は淡い青・青紫・ピンク・白・黄)



写真3. *Nymphaea* 'Queen Sirikit' クイーン・シリキット
耐寒性スイレンと熱帯性スイレンの交配種
日本の冬でも屋外越冬する耐寒性を有する

[写真・文：西内 良]



広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 📠 FAX 082-923-6100

- 開園時間 午前9時～午後4時半 (入園は4時まで) ■休園日 毎週金曜
- 入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
- 駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円

